

令和3年度  
第3回西脇市総合教育会議  
議事録

令和4年3月23日

西脇市教育委員会

## 西脇市総合教育会議議事録

### 1 開催日時

令和4年3月23日（水）午後2時～

### 2 開催場所

西脇市役所 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	岸本みのり	教育委員	柴垣美紀
教育委員	藤尾寛	教育委員	和多眞乗

#### (2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育委員会参事	遠藤一博
学習環境規模適正化推進 担当次長兼教育総務課長	高橋芳文
学校教育課長	松本亨
学校教育課主幹兼教育研究室長	衣川正昭

### 4 傍聴者

8人

### 5 会議の概要

#### (1) 市長あいさつ

#### (2) 協議・調整事項

ア 西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について

(ア) 年少人口予測について

(イ) 近隣市の状況について

#### (3) その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第3回西脇市総合教育会議を開会いたします。本日、事務局を務めさせていただきます、教育部長の森脇でございます。よろしくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、片山市長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

◎市長

こんにちは総合教育会議の開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。平素は教育委員の皆様方には、本市教育行政の推進に格別のご支援とご尽力を賜り心から感謝申し上げます。また、今日は小学校の卒業式が無事終わりました、委員の皆様方にも大変お世話になりました。誠にありがとうございます。さて、1月27日から兵庫県に出されているまん延防止等重点措置の実施期間が21日をもって解除されました。西脇市多可郡医師会会長の村上先生が防災行政無線で呼びかけをされてきました。市といたしましても、引き続き、感染拡大の防止と3回目の接種の推進など、収束に向けて全力で取り組んでいきたいと思っております。さて、本日の総合教育会議では、「西脇市学校学習規模適正化の進捗状況について」ご協議をお願いしたいと思っております。忌憚のない、また、活発な議論をよろしくお願いいたします。

○事務局

この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、片山市長をお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。柴垣委員、和多委員、両氏にお願いします。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

まず、事務局より資料の確認をお願いします。

————— [ 資料確認…記述省略 ] —————

◎市長

続きまして、総合教育会議についての説明をお願いします。

————— [ 説明…記述省略 ] —————

◎市長

確認ですが、教育委員会の組織について、首長に命令権限がないということがここにはっきり謳われていますので、まずそこを皆さんに理解していただいた上で、今回のこの総合教育会議というのが、教育委員の

皆さん方と教育委員会と首長部局とする会議であるということです。資料を見ていただくと、首長が教育行政に果たす責任役割が明確になるとともに、首長が公の場で教育政策について議論をすることが可能になりました。だから、平成27年度までは首長は公の場で教育について議論をできなかったということです。この会議が唯一、その議論ができる公の場であるということと、首長と教育委員会が協議調整をすることで、両者が教育政策の方向性を共有するという一番大事な会議という押さえをしていただきたいと思います。ちなみに、ここで教育の大綱というのはありますけど、第3期西脇市教育振興基本計画、これが大綱になります。これは教育委員会がつくっていますので、首長が総合教育会議において教育委員会と協議し、当該計画をもって大綱に代えることと判断した場合は、別途大綱を作成する必要はありません、ということになっていますので、西脇市の場合はこの基本計画が大綱として一番大事なものになって、首長が一応作ったという代わりになっているということです。

#### ◎市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について」説明させていただきます。事務局から説明をお願いします。

————— [ 説 明…記述省略 ] —————

#### ◎市長

説明が終わりました。今説明しましたけれども、すごく簡単に言うと、資料1の将来人口予測は、2月25日の検討会議で初めて出たわけですが、それが160人になるということです。そもそもいわゆる兵庫教育大学附属小学校や中学校に通っている児童生徒の数がカウントされておらず、今までの流出人口の平均値がとられていないというところから、そもそもそれと2パーセントがあっているのかということがあって、そもそも数字がおかしいのではないかと、マックスで見るより、もう少しシビアに見ていくべきじゃないですかというのがまず1つ。それと、その資料1は各地区の人口増減を全く反映されていないというところから、私もこのグラフのこの資料、人口推移の各地区のこの推移を見て、愕然としましたが、特に14歳以下のこの数の減少率はちょっと正直、こういう見方をするとびっくりをしました。このグラフをこのままの減少でいくと、限りなくゼロになってしまう話になりますが、そこまではないにしても、こういうことも加味して、諮問している検討会議に意見を言うのではなくてこういうデータの捉え方もありますよね、っていう提案をするというような趣旨で、事務局で資料を作成してもらったということです。では、ちょっと順番にご意見をお願いいたします。



総合教育会議の委員として答えなければならないということになります。が、確かに法律でいうと、最初に説明があったとおりにすけれども、私は平成25年の12月に就任しましたが、就任について承認されるときは前のシステムでしたので教育委員として任命されました。就任後は互選というかたちで、今、教育長としてここに座っているわけです。それから、初めに事務局から説明があったように、いじめ事件があって平成27年度に制度改正がありました。そのころは、全国的にいじめ事案について、教育長としてまたは教育委員会としての判断と対応が、どこともなかなか曖昧であったり遅れたりして、元大津市長の越直美さんが英断を振るわれ、教育委員会は要らないのではないかと言うところから始まって、この制度になりました。当時の文部科学大臣は伊吹文明さんでした。そのような状況の時代を踏んで現在があるわけですが、現実、教育の中立性からいえば、なかなか首長さんもシステムとしては、意見を述べるということは難しい部分もあると思います。政治家ですから、そういう意見が強く出てくると、教育は中立性を失いますので、そうならないように、この会議で協議を深めながら、お互いに政策を論じましょうというようになっていきます。私が今ここに座っているのは、この教育委員の5人の中の1人ということでもあるということです。今、いろいろお話ししていただきましたが、このデータのとり方については、市長の思いとしては、より正確にということではこういう3.5パーセント、そして区域外に出ていく4パーセントの子どもたちまで引いておくべきかどうか、実は私も考えておりましたが、これは先ほど説明があったと思いますが、このままいくと、解釈の仕方によっては、この市がどうなっていくのか、という非常に怖さがありました。それで2パーセントの資料を用いて、検討会議を9回、そして各地域会議、その他の説明会をずっとここまでやってきたわけで、市長はこの間の第9回目の検討会議を初めて傍聴されたという話ですが、諮問をしていただいたのは市長ですので、最後受け取っていただくのが市長ですから、それまでの間は事務局として所管している私ども教育委員会が責任を持って、その調整に当たらせていただきながら意見を集約していくことになります。そのために、何回も会議を持たせていただいている中で流れを見ていますと、2パーセント減の方のデータを今使っているわけですが、これを見ても皆さんのショックというのは非常に大きくて、何拠点案とかいう踏み込んだ意見もいただいている状況ですが、流れそのものは変わらないと思っていました。これから西脇市はどのような方向に向かっていくだろうという想定、そして、教育はどうあらねばならないだろうという想定、それから、地域はどうなっていくのだろうかとか、学校の立場とはどうあるべきかとか、さまざまな意見がいっぱい出ている中で、例えば今からこれを出すとしましても、答申をいただくまでにはそんなに時間がありません。こ

のデータで、例えば2パーセントと3.5パーセントと4パーセントと全部足していったらどのぐらい差があるのかということで数字が出てくると、西脇は大丈夫か、というのは先に出てくると思います。それを私個人としては、協議をしながら、それを共有し合い、そうならないまちづくりをどこかで踏ん張ってでも、西脇市が将来長く耐えていける、そんなまちづくりをするために、先手を打つための1つの方法として、2パーセントのデータで前へ進めてきていると思っています。今、このショッキングな実際のデータですが、現実を地域の方々が見られると、今もいろんなご意見をいただいている中で、さらにどんな意見が飛び出して、皆さんがどういうふうに考えるのか、検討会議の委員の方に委ねなければわかりませんが、私自身の立場としては、いきなりこのデータを出すのか、手持ちで持っておくか、というようなところかなと思っておりましたが、総合教育会議にこのデータが出ましたので、これを分析して委員さんのご意見を伺いながら、次の展開を待つしかないかなというような感じがしています。

◎市長

教育長がおっしゃったことを補足させていただきますと、今、教育長の話がございましたが、私が今まで諮問している立場から、傍聴は控えさせてもらっていました。ただ、前回の第9回検討会議のときは、たまたまネット中継をしていましたので、議員の皆さん方と一緒に傍聴させてもらいました。そのときに初めてこの2パーセントというのが出ました。今、教育長の方からもお話がありましたけど、2パーセントでも驚く数字なので、これ自体出しても方向性はわからないというような話もございました。私はこうなってほしいと言ったわけではなくて、こういう危機感のもとで何をしていけないといけないのか、これを見てもらうことによって、もっともっと議論をしていけないと、この会議自体に諮問させてもらっている以上、行政が持っている資料を出さないという選択肢になるので、それはどうかなというようなことも思います。

◎市長

次に、協議・調整事項(2)の「令和4年度教育委員会主要事業の概要について」事務局から説明させていただきます。

————— [ 説 明…記述省略 ] —————

◎市長

この情報ですが、たまたま2月25日の前々日ぐらいい加西市長と多可町長の3人でいろんな話をしていました。私も初めて聞いた情報だったので、事務局の方にもう1回情報を確認して今回資料を出しています。すごく上から目線という言い方が適切かどうかかわからないですが、西脇市は市長が諮問しているのはおかしい、と言われる委員もおられて、そ

の続きに、その答申を受けたら絶対だというご意見を言われたのですが、そうではないということの説明のためのものにもなります。事務局に確認ですが、多可町は、令和4年1月に意見書が提出済みということで、それにはその令和8年4月に今の多可町内の3中学校を1つにするということは明記されているのでしょうか。

○事務局

多可町さんの場合は、もう以前に答申を提出されていまして、そのときに今後の基本方針等々を考えていくという決めがされており、一定の方向性はついていっている中で、その次の段階として、令和4年1月に中学校3校を1つにするということを、令和8年4月に行うという決定をされたということです。

○市長

多可町長からは、以前、八千代を中心に小学校の統合があり、例えば小学校なら複式学級、中学校だったら単式学級になったときがトリガーで、それが見込まれるときにはもう自動的に次のステップに行くというトリガー条項でやっている、と説明を受けました。事務局にお伺いしたいのですが、加西市さんは、その令和8年4月に4つの中学校を2つにするということを事務局案として出しているということによろしいでしょうか。

○事務局

そのとおりで、事務局案として出されて、これから検討し意見をいただくながらまとめていくということでお聞きしております。

○市長

9月に最終答申なので、ある程度7回会議をされているということで、西脇市は9回目ですけども、この資料2について、いろいろなご意見をいただきたいと思います。

○委員

この中に載っていない市もたくさんあると思いますので、もっと広範囲に一度検討してみたいなという気がしております。

○委員

まず、他の市町村を見させていただいて、進んでいるところもあれば、まだこれからというところもあるのですけれども、第9回検討会議のオブザーバーとしていろいろ話をお聞きし、あと1、2回ぐらいで、当然ある程度の方向性を決めないといけないだろうというところで、前々回に2拠点案が出てきまして、人口推計等を検討しながら、具体的に10年後、15年後を考えたときに、やはりしっかりと考えていかないと何か無駄が出てくるんじゃないかなとか、教育の無駄とかというのがあるのかどうかわからないですけれども、一番ベストなかたちで答申を出していただけたらなというふうに感じました。



○委員

近隣市町の状況を新聞等で見させていただくことも多かったのですが、改めてこうやってみますと進んでいるところが結構あるので、その回数もその市によっていろいろですけれども、それをいろんな意見を踏まえながら、西脇市ももうあと数回で答申していかないといけませんので、いろいろ考えて検討していただきたいなと思いました。

○委員

新聞等にも載っていたように、高校も姫路市の方はかなり再編されるということで、かなり高校も統合されるということを知り、どれだけ統合が市民にとってメリットがあるのかということをはっきりと皆さんに御理解いただかないと、少人数制の良さというのもあり、統合されることによってもよくないこともあるのかなというのもあるとあって、私的な考え方としては、あまり大人数というのに良いイメージがなかったのですが、今日のこの資料を見て、そういうことじゃないような危機感もあり、そうなりますと、どれだけその統合というものが、少人数制の良さに負けないメリットがあるのか、そういうことをはっきりお示しいただければ、もう少しいろんな方にもご理解いただけるのかなというのがありますし、他市町も、ほとんど統合のかたちになるのはもう当然かなと思うので、そこは避けられないのかなとは思っています。

○市長

新聞では、加西市さんや多可町さんの記事が出ていましたけど、新聞の記事だけ見ると令和8年4月という文言は記事には出てなかったのかなと思いますが、事務局の方はそういう認識でいいのですかね。

○事務局

新聞記事には出ておりませんが、各市のホームページに出ていますので、それで確認をとっておるところです。

○市長

教育長から何かこれについて意見をお願いします。

○教育長

大規模校を作ろうという意図はありません。縮んでいくこの教育環境をどうにかたちで新しい時代に向けてつくっていかなければいけないのか、これは教育者として責任があります。会議で聞いていただいたと思いますが、小規模校は、加配教員をつけるとか、非常勤の先生を確保するとか、さまざまなことをやっても追いつかない場合もあります。そういうときに子どもたちを見たら、やはり先生が充足されるだけの規模の学校で、せめて勉強ができれば、専門的な学習も順当にできるし、大学まで行くだけの力をつけられる。複式学級の場合は、1人の先生が2学年分、同じ時間帯で同じ教室で2つの教科書を教えなさいということです。これをずっと1年間するというのが複式学級です。何とか解消

したいと思っています。統合して重春小学校のような規模を2つつくりましようとか、そんなことは考えていません。皆さん、極端な話をされなくて、実際、これからは教育環境を子どもの目線から見てどういう環境がいいのだろう、教師の目から見て働き方改革とか様々なことありますが、どういう教育環境がふさわしいのだろう、そこを論じていただきながらこの議論を進めてほしいなと思います。検討会議では、私は事務局ですから一言もしゃべれませんがそういう思いがあります。ですから、教育者としての立場、子どものこれからの立場、昔の我々の学び方とこれから子どもたちの学ぶ方向は全く違い、なかなか難しいものがあります。今日、小学校の卒業式に出席しましたが、これから子どもたちにどんな目標を持たせたらいいかということですが、式辞では、これから何年先はこうなりますということを言いたかったけど言えませんでした。非常に難しい課題が残っていると思います。ギガスクールや、今後の子どもたちが社会の流れに対応していただくだけの教育、コミュニケーション力をつけていかないといけないとか、そういうようなことを、まずはきっちり加えてどんな環境をするかということは大前提の命題としてあると思っています。ですから、こういうデータを駆使しながら、西脇市はどれぐらいの規模の学校をつくっていくのかということのを、将来を見据えながら進めていかないと難しいと思っている部分もあります。皆さんのお知恵を借りながら概ねこんな規模の教育環境をつくっていくといけないということをおそらくご理解いただけるのではないかと思います。検討会議に出席しています。私も50年近く西脇市に務めさせていただいていますが、どうしてこんなに子どもが減るのだろうという思いで、いつも式典に出たり、学校に訪問させていただいています。やはり適正な規模というのは絶対必要だと思っています。小さいなりのメリットも確かにありますが、そこを今後、子どもたちに保障していくためには何が必要か、じっくり子どもの立場に立って考えていながら進めていく必要があると思います。これが教育委員会や教育委員の立場ではないかなと思ったりしています。西脇市の教育委員はレイマンコントロールで教育者がいません。ここが大事だと考えています。それぞれのお立場でしっかり考えてご意見をいただけたらうれしいと思います。

◎市長

こういうことを7月に答申をいただいた後に、この会議で議論していくのだと思います。

○教育長

諮問を市長が受けていただいているのは本市と加西市さんです。あとは教育長さんというようなかたちになっているのですが、加東市さんは10年以上教育長をされておりますが、そのときに、加東市は、市長から、これからこういうようなまちづくりをしたい、そして、その中で教育の

かたちをつくりたい、というお話があったそうです。それに基づいて、教育の一貫化や連携に向けて研究をしましょう、という話になって進んでいる、ということをお話いただきました。そういうような流れの中で検討できたらいいと思います。そういう流れの中で協議を重ねながらと言われるのであれば、市長と教育委員会はしっかり共に見通しをつけながら、もし答申をいただいたら、その先をしっかりと構えて議論を進め、新しい方向を示していくべきではないかなと思ったりしています。

◎市長

この2つの議題を事務局の方から出させてもらいました。この2つの議題につきまして、もう少しわかりやすくするか、もう少し加工する等は別に置いておいて、こういう趣旨のものを第10回検討会議に、この総合教育会議の場で検討してもらったということで、総合教育会議から意見ではなく、情報提供というかたちで出させてもらうということについてはよろしいですか。

○教育長

それは意見として出すのですか。

◎市長

意見ではないです。情報提供としてです。

○教育長

情報提供というかたちで、資料として総合教育会議が出すのですね。総合教育会議の意見として出すことは首長の顔が出ることになりませんか。

◎市長

だから私からではなくて、総合教育会議で諮り、意見ではなく情報提供するということです。

○教育長

受け手はどう捉えられるでしょうか。

◎市長

受け手には丁寧に説明をして、この総合教育会議をどれだけの方が正確に理解されているかということが大事で、その上で情報提供です、という手法をとりたいと思っています。意見ではありません。

○教育長

今日のこの会議は独立した会議で事務局が取りまとめますので、第10回検討会議までの間に今日の総合教育会議も含め教育委員会の会議がありますので、その中で意見が出たのがこれです、としたほうがいいと思いますが。

◎市長

これまで2パーセントで出しているのです。それ以上のものは出せない話なので、この会議で検討してもらって情報提供させてもらう、とい

うことです。

○教育長

本当に時間のない中で第10回検討会議にこの資料を出して、2ヶ月の間に草案もつukらないといけないのですが、このデータを出すこと自体を会長と副会長に先に相談をかける必要があると思います。これまで9回やってきた流れの中でどれぐらいの影響を及ぼすかという不安もあります。

◎市長

ただ、これは計算が合っている正しいデータですので、シビアな面も含めて出さないといけません。今のこのシビアな数字を出しても結論はそうに変わらないと思います。教育長もそういわれましたので。

○教育長

いろんな話が増幅して加速するような感じになるかなという懸念があります。先ほど言ったように、2パーセントでも概ね皆さんは将来を押し量っておられるので、検討会議にこのデータを提供することがどういうことになるのかということで、間違っていましたと、会長に相談して、判断を任せるかたちだったらいいと思いますか。

◎市長

市の最高意思決定機関である総合教育会議が提供しますが、会長がいらないと判断されたら、それはそれまでです。

○事務局

事務局から述べるのは申し訳ないのですが、お手元の教育委員会制度の資料を見ていただきますと、「政治的中立性の確保」で「総合教育会議で、首長と協議・調整は行うが、最終的な執行権限は教育委員会に留保されている。」となっていますので、あとは教育委員会で協議をしたらいいと思います。

◎市長

ただ、総合教育会議で決まったことは尊重してもらわないといけません。

○事務局

制度上は今申し上げたとおりです。

◎市長

確かにそうです。この会議で出しますという決定をします。教育委員会の事務局の中でその執行権があるわけです。だから私が言っているように検討会議で検討してもらうのが筋じゃないですかというのが私の考え方です。それをそこまで出さないというのであれば、それは変な話ですけど、総合教育会議に対する冒涇までは言いませんが、尊重しないという話になると思います。検討会議に出してくださいとこの会議で決めたので、それを出さないという選択肢が教育委員会事務局にあるわけじ

やないと思います。

○事務局

出さないとは言っていません。次に開いた教育委員会の議論で、出すということになったら出すということです。最終は教育委員会に留保されていることをお伝えただけで、出さないといったものではありません。

◎市長

今、教育委員会の上の会議をしています。今ここに教育委員がおられるので、ここが一番の最高意思決定機関じゃないですか、ということをおっしゃっているだけです。

○事務局

あとは、教育委員会で尊重して判断させていただきます。

◎市長

逆に今ちょっとエキサイトしていますが、こういうことが大事だと思います。このようなオープンの席で真剣に議論することが大事だと思います。

◎市長

その他、ご意見等ありますか。

○委員

へそマラソンの件ですが、先日、神戸新聞に、令和4年度の予算の計上がないということ、中止になるのかなというようなことが記事に出ておりました。私も中学生の頃、走らせていただきましたのでちょっと寂しいなという思いもあつたりしながら、今後どうなっていくのか教えていただければと思います。

◎市長

神戸新聞でも3回にわたり話が出まして、まず子午線マラソンについての首長としての意見を述べさせていただきます。もう40年以上続いた大会が実施されないことはすごく寂しい思いをしているのが率直な思いです。この度、大会の開催に当たってこられた関係の方々が大変疲弊しておられるということで、事業の継続が困難であるとの状況において、実行委員会さんが来年度は開催しないということが決定されて、教育委員会さんの方で予算計上しないという判断をされたというふうに聞いています。実施しないという判断に対して、この総合教育会議の中で首長が実施しなさいという権限がない、これも事実です。今回の判断について、市民の皆さんから大変厳しいご意見をいただいています。非常に厳しいご意見を聞いていますが、市民の皆様のさまざまな意見を鑑みますと、子午線マラソンは伝統のある大会であり、市のPRやまちづくりにも大きな役割を果たしてきた大会であるとの声が多い。確かにそうだと思います。そのことは実感していて、本当に市民から親しまれてきた大会であるということをお改め感じております。しかしながら、大会の開

催にあたっては、多くの関係団体や地域の皆さん、関係市民の皆さんに多大なご負担をかけながら開催を続けて来られたという側面があるのも一方では事実です。このような状況であります。存続を望む声の大きいことも鑑みて、市長として教育委員会さんの方には、今後の大会の実施やあり方について関係団体等のご意見をじっくりお聞きしてほしい。ランナーの方々の中には、直接大会に携わってもいいとおっしゃっている方もおられますので、そのような状況を踏まえてほしいということ意見をとして申し上げたいというふうに思います。

○事務局

少し要望よろしいですか。今の件につきまして、教育委員会としては、市長の命を受けて、進まないといけないと思っておりますが、これは人事権と予算権は首長部局でございますので、可能でしたら体制の整備に少し検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。

◎市長

人事権と予算権は確かに首長部局にありますので、人事は今のところもう固まっていますから、予算は要求してもらったら当然つけさせていただきます。予定にしています。

◎市長

ほか何かございますか。

◎市長

それでは、事務局の方から連絡事項お願ひします。

○事務局

今年度の総合教育会議につきましては、本日をもって終了といたしたいと思っております。また、来年度の総合教育会議につきましては、開催時期等詳細が決まりましたらご案内させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、これを持ちまして、令和3年度第3回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————